

「みずから守るプログラム成果発表・情報交流会」の実施結果報告

平成 24 年 10 月 27 日（土）地域の防災リーダーに、「活動に対するやりがい」や「防災リーダーとしての使命感」を持ってもらい、その後の地域主体の継続的な防災活動につなげることを目的として、地域協働事業（手づくりハザードマップ・大雨行動訓練）の成果発表、他地域の防災リーダーや防災 NPO との意見交換を行う、「みずから守るプログラム成果発表・情報交流会」を開催しました。町内会や自主防災会、防災 NPO、学識者、行政関係者ら約 50 名が参加しました。

< 主な内容 >

講演「地域主体の水防災活動の重要性」（NPO 法人あいち防災リーダー育成支援ネット 太田貴代子委員）

成果発表会

- ・小牧市藤島地区
- ・小牧市藤島団地
- ・安城市西尾町内会
- ・名古屋市港区南陽学区
- ・岡崎市伊賀南 1 区・2 区
- ・西尾市吉良町荻原地区
- ・北名古屋市加島地区

情報交流会

< 開催風景 >

講演



成果発表会





情報交流会



< 議事要旨 >

講演「地域主体の水防災活動の重要性」(NPO 法人あいち防災リーダー育成支援ネット 太田貴代子委員)

- ・近年、地震も去ることながら水害の被害も各地区で多く発生しており、被災者やボランティアの方が苦労している。そのため、地域で町内会が作る「手づくりハザードマップ」は必要であると考え、県の手づくりハザードマップ事業にNPO 法人として参加した。
- ・地域の中には、「ハザードマップは私たちのようなNPO が作ってくれる」と勘違いしている住民がいる。そうではなく、自分たちの町を自分たちで歩いて、どこが危険かを把握してほしい。町歩きをすることで、防災、水害に対しての意識が生まれてくる。自分たちの町を、自分たちがどのように理解し、どのように防災を進めていくかが重要となる。市から配布されたハザードマップは、配布後、なくしてしまう場合が多い。しかし、自分で歩いて作ったマップはおろそかにできず、「一人でも多くの人に知ってほしい」という思いがわいてくる。そこにこの事業の狙いがあると思う。
- ・手づくりハザードマップを作った終わりではなく、そこからが始まりである。マップの内容を住民が理解し、その町内会が、地域の人たちと一緒にまちづくりを起こしていく、そこに大きな目的がある。

成果発表会

小牧市藤島地区

- ・普段何気なく歩いている道路を、問題意識を持って歩くことで、色々な危険な箇所の発見につながった。普段は年代が違う住民と顔を合わせることは少ないが、一つの目的に向かって活動することで互いの親睦につながった。
- ・課題としては、ハザードマップを配布したものの、配布しただけで終わってしまっていること、区民全員に確実に避難勧告の発令ができるようにすることなどである。

小牧市藤島団地

- ・当地区の課題としては、自治会役員で構成する「自主防災会」組織があるが、自治会役員の大半が1年交代制のため、実際に台風の襲来や地震などの災害に見舞われたときに防災・減災活動に機能的に参加できるかどうかということ。自主防災会メンバーが高齢化していることも不安要素になっている。

安城市西尾町内会

- ・当地区に被災経験者が多いことから、マップ作りに対する関心は強かった。NPO 法人の指導のもと、まず講習会を開いた。現場を3班にわけ、自宅の近くを巡回調査し、その結果を報告して現地の状況を皆で共有した。被害にあった人と一緒に歩きながら調査をしたことで現場の状況がよく分かった。
- ・その後、大雨行動訓練を行い、反省会を行った。「参加者は熱心だった」、「昼間のサイレンが全然聞こえなかった」、「夜間の訓練も必要」、「転入者のために時々訓練が必要」といった意見が出された。

名古屋市港区南陽学区

- ・我々の町内の住民は意識が高く、我々がどんな行事をやるにしても、消防団も一緒になってやってくれるという、非常に意識の高い地域である。
- ・手づくりハザードマップの作成を通じて、身近なところに潜む危険などを多く発見でき、非常に良かったと思っている。その他色々な成果があるが、マンホールや側溝にふたのない箇所などを発見でき、住民共々こういう箇所は気をつけようという意識になった。

岡崎市伊賀南1区・2区

- ・当地区には行政が設置した「浸水計」がある。10 cmの高さまで水が来たらサイレンが鳴るので、「避難勧告などが出なくても自主的に避難する」という地区のルールを作った。住民はサイレンが鳴ったら、雨が降る前から避難所へ自主的に避難するようになっている。今年の17号台風のときにも、40台の車が高い場所へと移動されていた。
- ・作成した手づくりハザードマップの右上には、消防団の携帯電話番号を記した。本来、消防団は本部の命令がないと出動できないが、住民が消防団を必要とする場合には出動していただくというボトムアップの仕組みを作った。

西尾市吉良町荻原地区、北名古屋市加島地区の発表は事務局より行ったため割愛

情報交流会

前半は「成果発表に対する意見やアドバイス」、後半は「学識者、防災NPO、町内会長、自主防災会長、行政それぞれの立場から、水災害の被害軽減のために期待すること」をテーマに意見交換を行いました。

学識者、防災NPO、町内会長、自主防災会長、行政それぞれの立場から、水災害の被害軽減のために期待すること

主な意見；

- ・愛知県内には9,000以上の町内会がある。水害のない地域もあるが、水害に関係する地域もまだまだ多い。これらの全ての地区で手づくりハザードマップを作るのは大変なので、マップを作った地域が中心になって、自分の隣の町内会でマップを作り上げてほしい。他力本願ではなく、この機会に知識を広めていけるように指導側になって、今回マップの作成を通じて得たノウハウを生かしてほしい。そうすれば、愛知県は災害に対して強いまち、自分たちの財産を守るまちになるとともに、子どもたちにつなげていくことができる。
- ・手づくりハザードマップや大雨行動訓練の事業を広げることが大切である。そして、深掘も大切であると思う。この事業は、マップ作成と訓練がセットになっている点は良いと思うが、ベストに持っていくためには、色々な改善課題を掲げて終わりにせず、それを改善していくということが重要である。

以上